

台湾大学での“協議合作備忘録簽約儀式”報告

たなかのりひさ
田中徳久 (学芸員)

はじめに

当館には、晩年^{おだわらしりゅうだ}を小田原市入生田^{おだわらしりゅうだ}で過ごした正宗^{まさむね}徹敬^{ていけい}博士の台湾産の植物標本が1,000点以上収蔵されています。この中には、正宗博士が研究した標本だけでなく、弟子の福山^{ふくやま}伯明^{りあき}博士が研究した標本も多数あり、福山博士が新種として記載した台湾産のラン科植物のタイプ標本も含まれています(「自然科学のとびら」第5巻1号p.8参照)。福山博士は不慮の事故により台湾で亡くなられ、このタイプ標本の大部分は、太平洋戦争中および戦後の混乱で失われたものと考えられていたものです。

台湾大学のデータベース事業

現在、台湾では、台湾に関連するさまざまな資料などのデジタル化とそのデータベース構築を進めています。その一環として、台湾産植物の標本をデータベース化する計画が立案されました。2007年8月、台湾大学生態学・進化生物学研究所の謝長富教授が当館を訪れ、当館に収蔵されている台湾産の植物標本について協力の依頼がありました。その後、2007年11月と2008年4月に助手の王雅諄、蔣寶慧の両氏が来館され、タイプ標本を含む1,000点を超える正宗・福山標本1点1点の全体や部分、採集情報の記載されたラベルなどを撮影し(図1)、その撮影画像をもとに種名や採集地、採集年月日などをデジタル化し、標本の画像とともにデータベースを構築しました。



図1 セイタカエビネのタイプ標本(KPM-NA0105513)(画像は台湾大学のホームページより)。



図3 署名した“協議合作備忘録”のお披露目。

そして、これらの活動と今後のデータベースの相互利用について、正式に“協議合作備忘録”を取り交わすことになりました。

“協議合作備忘録簽約儀式”

2009年11月、当館の勝山輝男^{かつやまてるお}学芸員と私は、台湾大学の謝長富教授に招かれ、“簽約儀式”に出席し、“協議合作備忘録”に署名するため、台湾へ出かけました。

“簽約儀式”は、11月17日、台湾大学の校史館で催行されました。校史館は以前は図書館として使われていた台北帝国大学時代の建物です。式典は、台湾大学の収蔵品情報研究センターの項潔教授^{むらたけん}のスピーチから始まり、東京大学の邑田仁教授^{いけだひとし}、池田博准教授に続き、当館の勝山学芸員がスピーチしました(図2)。もちろん全部英語です。その後、それぞれに“協議合作備忘録”へ署名し、そのお披露目(図3)があり、記念品の贈呈を受けました。最後に記念撮影があり(図4)、式典は終了です。私は、記念撮影には混ぜてもらいましたが、写真を撮っていただけでした。万一のために、署名用の万年筆を新調して臨んだのですが…。



図2 スピーチする勝山学芸員。

なお、式典の前に校史館の展示を見学しましたが、そこは、台北帝国大学時代から近年の台湾大学までの歴史的な写真資料、



図4 “簽約儀式”終了後の記念撮影。



図5 「福爾摩沙自然史 植物篇」の展示。

大学内に設置されている博物館や各施設の紹介などが一同に集められていました。また、式典の後には、新しい図書館^{たしろあんでい}で貴重な田代安定^{たしろあんでい}氏の資料などを見学しました。

特別展「福爾摩沙自然史探索 植物篇」

“簽約儀式”翌日の11月18日は、台中の自然科学博物館でこの日から公開される特別展「福爾摩沙自然史 植物篇」(図5)のオープニング・セレモニーに出席しました。この特別展は、高知県の牧野植物園と東京大学が資料の提供などで協力したもので、台湾の植物研究の歴史を豊富な資料とともに紹介したものです。80年振りに再発見された「武威山茶」がセレモニーを取材に来た報道関係者の耳目を集めていました。

今回の台湾訪問では、このほか、台湾大学や林業試験所の植物標本庫などで、戦前に収集された早田文蔵^{はやたぶんぞう}氏や工藤祐舜^{くどうゆうしゆん}氏らの著名な分類学者の標本のほか、植物生態学が専門の私にはなじみが深い鈴木時夫^{すずきときお}氏らの標本をみる事ができました。なお、前述の台湾大学で公開している当館の正宗・福山標本のデータベースは、<http://tai2.ntu.edu.tw/kanagawa.htm> で公開されています。ぜひ、ご覧ください。今回の台湾訪問でお世話になった謝教授ほかの皆様に感謝します。